安川電機（6506）

2008年3月期決算説明会：要約版
（2008年4月18日）

取締役社長　利島　康司

事業セグメント別売上高構成比

情報

【主要製品】
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ周辺機器、ﾚｰｻﾞｰ応用ｼｽﾃﾑ
情報処理ｿﾌﾄ・ｻｰﾋﾞｽ

システムエンジニアリング：（S）

【主要製品】
鉄鋼ﾌﾟﾗﾝﾄ用電機ｼｽﾃﾑ
上下水道用電気計装ｼｽﾃﾑ
新ｼｽﾃﾑ機器等

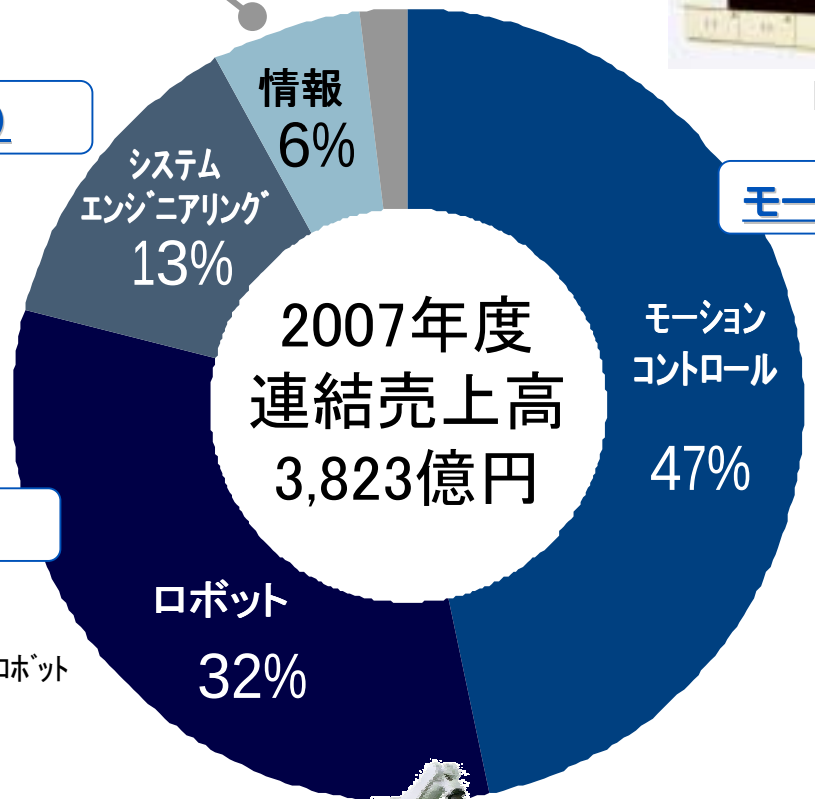
ロボット：（R）

【主要製品】
・産業用ﾛﾎﾞｯﾄ：
ｱｰｸ・ｽﾎﾟｯﾄ溶接・塗装ﾛﾎﾞｯﾄ、FPD搬送ﾛﾎﾞｯﾄ
新世代ﾛﾎﾞｯﾄ
・半導体製造装置用ﾛﾎﾞｯﾄ：
半導体製造装置用ｸﾘｰﾝ・真空ﾛﾎﾞｯﾄ等

ｱｰｸ溶接ﾛﾎﾞｯﾄ
による自動車
部品溶接

新世代ﾛﾎﾞｯﾄ
によるﾛﾎﾞｯﾄ組立

当社製品活用事例



当社製品活用事例

【電子部品】
ﾁｯﾌﾟﾏｳﾝﾀ

【工作機械】
ﾀｯﾋﾟﾝｸﾞﾏｼﾝ

モーションコントロール：（M）

【主要製品】
ACｻｰﾎﾞﾓｰﾀ、ｺﾝﾄﾛｰﾗ、ﾘﾆｱｻｰﾎﾞ、ｲﾝﾊﾞｰﾀ等

仕向先別売上高構成比

アジア

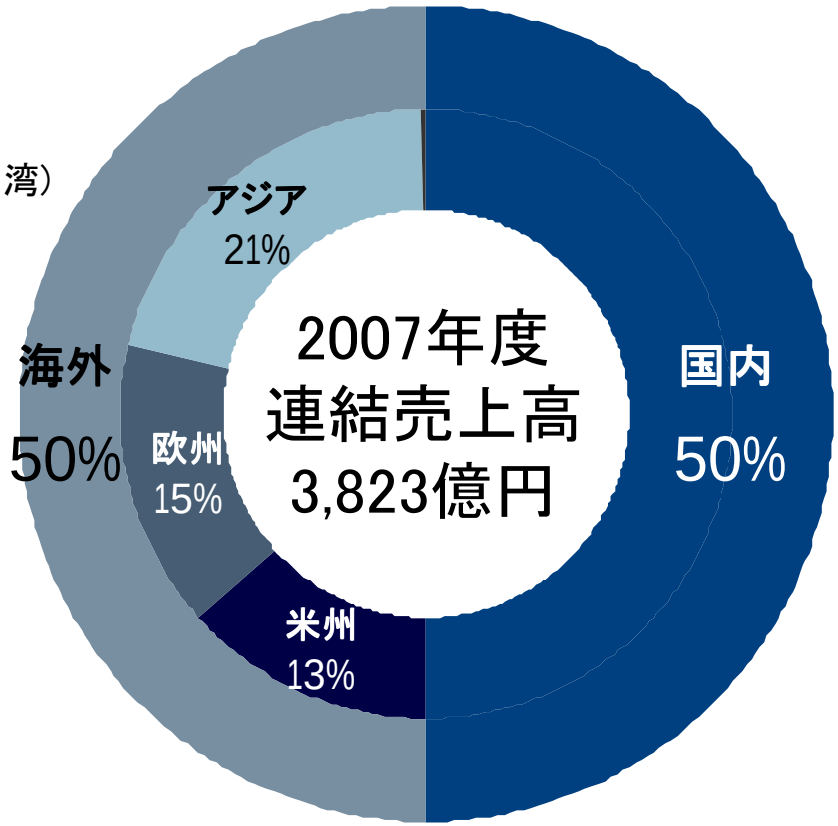
【主要子会社】
・安川電機（上海）有限公司（中国）
・ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ安川電機(ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ)
・韓国安川電機(韓国)
・台湾安川開発科技股份有限公司(台湾)
・首鋼ﾓｰﾄﾏﾝ有限公司（中国）
・ﾓｰﾄﾏﾝﾏｻﾞｰｿﾝﾛﾎﾞﾃｨｸｽ（ｲﾝﾄﾞ）

欧州

【主要子会社】
・欧州安川電機（ﾄﾞｲﾂ）
・ﾓｰﾄﾏﾝ ﾛﾎﾞﾃｨｸｽﾖｰﾛｯﾊﾟ（ｽｳｪｰﾃﾞﾝ）
・ﾓｰﾄﾏﾝ ﾛﾎﾞﾃｯｸ(ﾄﾞｲﾂ)

米州

【主要子会社】
・米国安川電機（米国）
・ﾓｰﾄﾏﾝ(米国)



日本

【主要子会社】
・ﾜｲ･ｲｰ･ﾃﾞｰﾀ
・安川情報ｼｽﾃﾑ
・安川ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ
・安川ｺﾝﾄﾛｰﾙ
・安川ﾓｰﾄﾙ

2007年度連結決算のポイント

6期連続増収増益で過去最高の業績を更新

売上高	3,823億円	前期比 +3.6%
営業利益	364億円	前期比 +8.7%（営業利益率 9.5%）
経常利益	352億円	前期比 +5.5%（経常利益率 9.2%）
当期純利益	202億円	前期比 +6.6%

（いずれも過去最高）

（M）インバータ：欧州・アジアで大きく伸長、ACサーボ：後半回復傾向

（R）自動車向け：堅調、液晶：下期から受注回復、半導体：調整局面

（S）鉄鋼プラント用電機システムの好調を受け大幅増益

（情報）液晶調整の影響を受け減収減益、体質強化を実行中

2007年度連結セグメント別業績

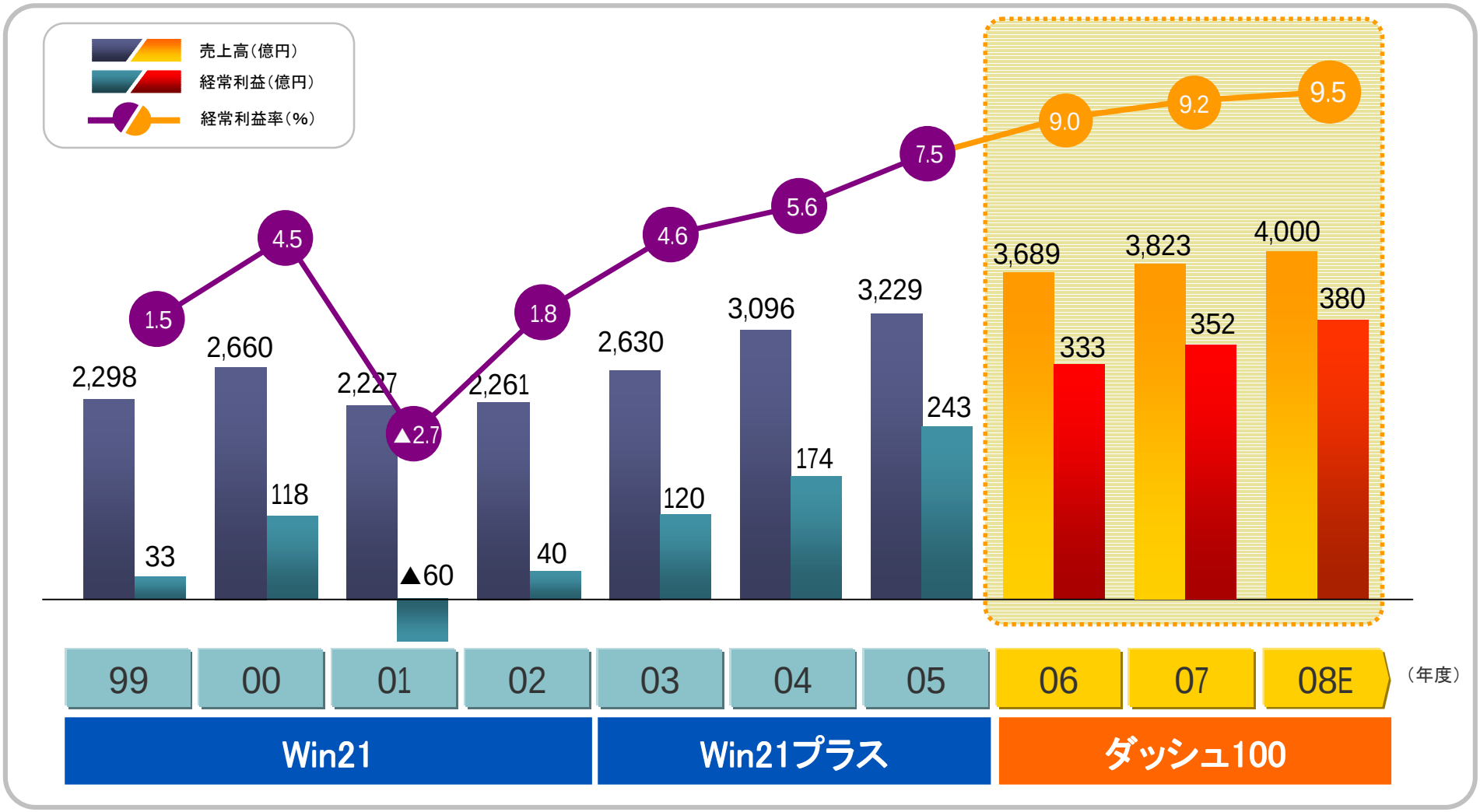
(M)売上拡大、(S)利益改善が全社業績を牽引

（単位：億円、%）

	07年度		06年度		前期比	
		利益率		利益率	増減額	増減率
売上高	3,823		3,689		+134	+3.6%
（M）	1,778		1,596		+183	+11.5%
（R）	1,235		1,267		▲32	▲2.5%
（S）	505		494		+10	+2.1%
（情報）	231		264		▲33	▲12.4%
営業利益	364	9.5%	335	9.1%	+29	+8.7%
（M）	213	12.0%	198	12.4%	+15	+7.8%
（R）	85	6.9%	89	7.1%	▲4	▲4.5%
（S）	39	7.8%	18	3.7%	+21	+117.2%
（情報）	4	1.8%	11	4.5%	▲8	▲64.7%
経常利益	352	9.2%	333	9.0%	+18	+5.5%
当期純利益	202	5.3%	189	5.1%	+13	+6.6%

連結業績の推移

08年度は中期経営計画「ダッシュ100」を仕上げる1年



本資料に記載されている業績見通しは将来の予測であり、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

2008年度連結業績見通しのポイント

伸びる市場を強い製品で攻め、7期連続増収増益へ

売上高	4,000億円	前期比 +4.6%
営業利益	380億円	前期比 +4.1%（営業利益率 9.5%）
経常利益	380億円	前期比 +7.9%（経常利益率 9.5%）
当期純利益	210億円	前期比 +3.7%

（いずれも過去最高）

（M）新製品効果でグローバル・シェア拡大

インバータ：省エネ需要が成長を牽引、ACサーボ：液晶向けが拡大

（R）次期主力ロボット投入と新世代ロボットで市場開拓を促進

自動車：高水準持続、液晶：受注増を売上・利益につなぐ、半導体：コストダウン徹底

（S）鉄鋼など当社が強い市場は堅調、安定的に5%超の利益を実現

年間配当金を1株当たり13円(予想配当性向15.6%)に増配予定

本資料に記載されている業績見通しは将来の予測であり、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

2008年度計画前提

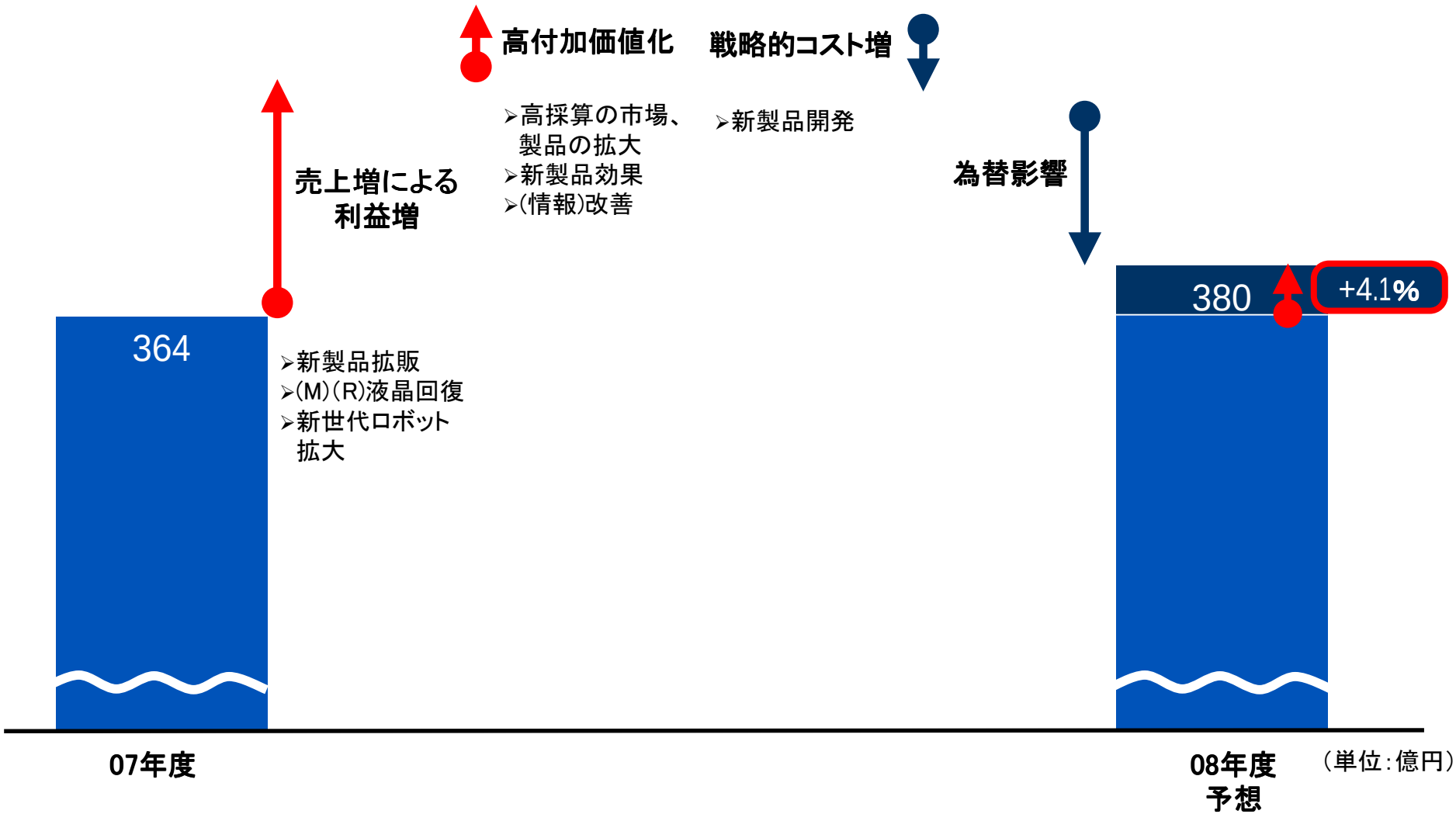
新製品を中心に強い製品による市場開拓を進める
マクロ環境は下期にかけて緩やかな回復を見込む

市場環境	半導体	年度前半は調整局面が続くが、後半からの回復を見込む
	液晶	07下からの拡大基調が続く、04年度のピークに迫る高水準へ
	自動車	生産革新のための投資継続、組立・物流へのロボット適用が進む
	鉄鋼	日系メーカに海外投資拡大の動き

地域動向	米州	自動車の投資に一段の減速リスクが残るが後半は緩やかな回復へ
	欧州	空調・自動車・一般機械等総じて堅調
	中国・アジア	域内需要が強く高成長持続

本資料に記載されている業績見通しは将来の予測であり、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると
判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

営業利益増減要因分析（2007年度⇒2008年度予想）



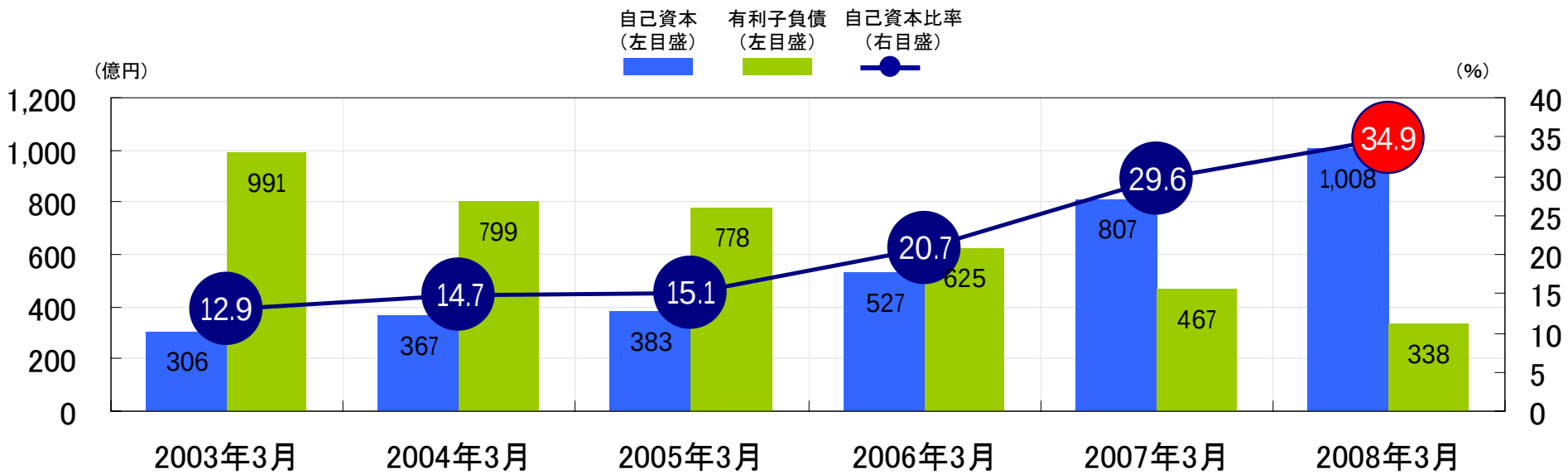
本資料に記載されている業績見通しは将来の予測であり、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

B/S構造の効率化（連結）

2007年3月期	
➢ 自己資本比率	29.6%
➢ 自己資本	807億円
➢ 有利子負債	467億円
➢ D/Eレシオ	0.58
➢ 棚卸資産	581億円
（回転月数）	（1.9ヵ月）

2008年3月期	
➢ 自己資本比率	34.9%
➢ 自己資本	1,008億円
➢ 有利子負債	338億円
➢ D/Eレシオ	0.34
➢ 棚卸資産	579億円
（回転月数）	（1.8ヵ月）

※棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期首期末平均値を使用



本資料に記載されている業績見通しは将来の予測であり、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

リスク要因

①為替相場の変動

急激な円高の進展など、為替相場の動向によっては、
当社業績に悪影響を及ぼす可能性がある。

（ご参考）　2007年度為替実績　1ドル＝115.4円　1ユーロ＝161.4円
　　2008年度為替前提　1ドル＝100.0円　1ユーロ＝150.0円

②市場環境

（1）米国をはじめとした世界経済の減速リスクが高まっており、
　　海外売上高の減少等の悪影響に注意を要する。

（2）半導体製造装置市場の調整が長引く可能性がある。

③原材料・部品価格のさらなる上昇

想定範囲内にとどめるよう最善の努力をしているが、引き続き
値上げ圧力を受けており、利益圧迫要因が拡大する恐れがある。

本資料に記載されている業績見通しは将来の予測であり、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると
判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

注 記

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。